

平成27年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	下呂市	学校名	益田清風高等学校			
校長名	中垣内隆夫	対象学年	2年生・3年生	人数	2年生23人、3年生63人	
活動名	地域の民話研究（2年） 地域の水産資源研究（2年） ふるさと観光案内（2年生） ふるさと出前授業（2年生） ふるさと紙芝居（2年生） ふるさとノルディックウォーキング（3年生） 天領朝市（3年生） 観光プランコンテスト（2・3年生） スイートコーン栽培と商品開発	時間数	2・3年 57時間		継続年数	9年
題材	<p>1 自然環境（<u>山野</u>・<u>河川</u>・<u>動物</u>・<u>植物</u>・<u>その他</u>） [御嶽山、益田川、アジメドジョウ]</p> <p>2 歴史（出来事・<u>史跡</u>・<u>先人</u>・<u>その他</u>） [久津八幡宮・孝池水などの民話舞台、校歌]</p> <p>3 文化（芸能・芸術・<u>民話</u>・<u>風習</u>・<u>その他</u>） [お美津ギツネ・祖師野丸など地域の昔ばなし、地域の観光資源]</p> <p>4 地場産業（<u>農業</u>・水産業・伝統工芸・<u>その他</u>） [地元野菜の販売、観光、とうもろこし栽培、地域の朝市]</p> <p>5 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動 []</p> <p>6 その他（ 自然災害と地域復興 ） [御嶽山噴火と風評被害]</p>					
複数年継続するための工夫改善	<p>これまでの総合学科の地歴科科目を中心とした学習活動の積み重ねに加え、今年度はビジネス会計科によるスイートコーン栽培から商品開発の実践、朝市での販売など、地域と連携を取りながら取り組むことができた。本校単体としての取り組みではなく、地域に支えられ地域に学生の働きを還元することで、継続性ある活動になることを目指した。</p>					

1 ねらい

本校の教育方針である「地域社会の一員としての責任と役割を自覚し、地域に貢献しようとする態度を育てる」ため、地域と連携したさまざまな学習活動を実践している。

今年度はこれまでの活動に加え、地域の要請を受ける形で農作物栽培から商品開発、販売までの一連の流れを体験的に学習することができた。また、御嶽山の噴火がもたらす地域への影響と課題を考察し、高校生の視点から災害に強いまちづくりを提案した。地域との協力を得ることで連携を深め、幅広く「ふるさと教育」を実践した。

2 活動の概要

【地域研究】

(①**地域の民話研究**) 地域に伝わる民話のうち、益田川に関するものを選択し、史料調査・現地取材・聞き取り調査・まとめと考察といった学習活動を通して地域理解を深めた。学習内容をレポートにまとめ、発表した。

(②**地域の水産資源の研究**) 地域に生息するアジメドジョウの漁法の歴史と現在のようすについて、現地を取材し、学習した。取材内容を映像作品にまとめ、発表した。



取材のようす (6月8日)

【観光地理】

(①**ふるさと観光案内**) 5月の連休に下呂温泉街で観光案内実習を行った。事前の学習と現地の下見を重ね、観光客に温泉寺、しらさぎ伝説、湯ヶ峰などの下呂温泉の観光資源を紹介した。地元の生徒でありながら、新しい発見があり、観光客にも喜んでいただける内容となった。

(②**ふるさと出前授業**) 昨年度生徒が作成した「ふるさとカルタ」を活用して地元の萩原小学校2年生を対象に地域の魅力を伝える授業を実施した。わかりやすく地域の魅力を伝える工夫をすることで、授業を行う高校生もさらに理解が深まり、地域への関心が増すきっかけとなった。

(③**ふるさと紙芝居作成**) 地域の昔ばなしを紙芝居にして作成。

(④**ノルディックウォーキング**) 下呂市でもイベントが開かれるなど地域でも関心が高まりつつあるノルディックウォーキングを体験し、観光客を対象に体験会を実施した。普段見慣れているはずの景色に新たな魅力を感じるなど地域の再発見につながった。

(⑤**観光プランコンテスト**) 御嶽山噴火にともなう風評被害を防ぐために、生徒自身が取材を重ね御嶽山の高地トレーニングに注目しスポーツ観光をテーマとした観光プランを提案。地域の方々から生徒へ多くの支援をいただき、生徒にふるさとの課題を自ら解決しようという使命感が芽生えた。

(⑥**地域の課題解決策の提案**) 少子高齢化の進む下呂市の人口問題を解決するために、ワークショップ形式で意見を出し合い、20代の若者を下呂市に呼び戻すためのアイデアを提案。下呂市役所ロビーに資料を展示した。



出前授業の様子

【課題研究】

(①**スイートコーン栽培・商品開発・販売**) 地域の協力を得て、トウ

モロコシを栽培。収穫した商品を天領朝市で販売するとともに、コーンポタージュを開発。「げろにゾッコーンポタージュスープ」として販売。また、地域の小学生と関係者を招き試食会を実施、馬瀬のわかあゆ保育園と介護施設つつじ苑、上原小学校の親子クッキング、下呂小学校に贈呈し、新たな観光資源を地域にもPRした。

(②**天領朝市**) 毎年初夏から秋にかけて毎週金曜日に開催される地域の朝市に参加した。地元でとれた食材の販売を通じて、下呂の特産品について学ぶとともに、地域を活性化するために取り組む多くの人たちとの交流を深めることができた。また、生徒が開発したコーンポタージュ販売に招待するなど、朝市に賑わいを作り出した。



畑での作業の様子



天領朝市での販売

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

【地域研究】

聞き取り調査に基づく作品制作を実施し、地域の歴史を学びながら地域住民の思いや願いを理解し、地域文化を体感することができた。制作作品は各種コンクールに出品し、下記のような評価をいただいた。研究内容は今後、関係HPで公開し、作品冊子にまとめる予定である。

- ・第11回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト（國學院大學・高校生新聞社主催）
地域民話研究部門〔団体〕最優秀賞、地域文化研究部門〔団体〕佳作
- ・デジタルアーカイブコンクール（岐阜女子大学主催）最優秀賞
- ・生涯学習視聴覚フォーラム視聴覚作品コンクール（岐阜県社会教育視聴覚連絡協議会主催）
岐阜県議会議長賞

【観光地理】

下呂市観光課や、地域の人材を講師として招き、生徒を地域全体で育む雰囲気を作り出すよう努めている。また、作り上げた作品を市役所ロビーに展示したり、小学校への出前授業で、地域に成果を紹介・還元している。それらの成果については、「総合学科だより」に掲載し、市内中学校に配布、またHPに掲載し広く紹介している。

【課題研究】

事前学習で地域の人材を活用しながら、地域の魅力と活用方法について学びを深めた。実施した内容については、HPによる閲覧で各取り組み内容を紹介している。また、生徒の作品を活用して地域や中学校での発表、出前授業を実施した。スイートコーン栽培では、農地の利用から栽培まで地域の協力をいただいた。販売に際しては、多くの関係者を招いて成果を発表し、感謝の気持ちを表すことができた。また、地域の保育園、小学校、介護施設への商品提供により、多くの方々の笑顔に触れることができた。

4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）

地域での体験的学習により実感を持ちながら地域理解を深め、地域社会に誇りと自信を持つことができている。地域で仲間と活動するということが自体に喜びを見出す生徒も多く、また、地域での多くの体験を通じて、高校生が元気に活動することが地域の活性化につながるという実感を得た。地域研究においては、今後、他地域との文化比較を進めることにより、地域文化の独自性を明らかにしながら、地域に暮らす自分たちの姿を明らかにしていきたい。また、課題研究では、高校生の活動やアイデアが地域の方々に受け入れられることで、自分たちの取り組みへの自信に繋がっている。地域のイベントにも参加することで、異世代とのコミュニケーションをとる機会が増え、自分たちの意見を発信できるようになった。今後、生徒のアイデアを実現化することで、地域貢献を重ねていきたい。